

令和5年度加賀市立片山津中学校学校教育グランドデザイン

「学校教育目標」

温かな人間関係の中で生き生きと自主的に活動し、持続可能な社会の創り手として自ら課題を求め、解決することができる生徒を育成する

☆自ら考え、学び、自他の良さに気付く生徒
☆お互いに認め合い、助け合う生徒

☆自らの考え・主張を自分の言葉で伝えられる生徒
☆将来の夢や希望を持ち、自主的にその実現のために努力できる生徒

目指す生徒像

目指す教師像

夢を語り、夢を持たせる、夢先案内人 誰もから信頼される教師

豊かな人間性

温かな人間関係

健康・体力

持続可能な社会の創り手

資質・能力の育成

よさに気付く力
(創造)

伝える力
(発信)

関わる力
(協働)

挑戦し、やり抜く力
(挑戦)

BE THE PLAYER
夢の実現

SWCO

興味を
持つ

振り返る

課題設
定する

実行
する

SWPBS

STEAM

PLANS



夢の実現を支える 4 つの要素

☆4 つの要素を基に、様々な教育活動の機会を通じて、夢の実現を可能にするための活動を行います。



SWPBS（学校規模のポジティブな行動支援）による3層支援は、承認や賞賛を通して生徒の望ましい行動を引き出すものである。効果としては望ましい行動を増やすことで、望ましくない行動を減らしていくことができ、更に生徒の自己肯定感や、やる気、意欲、モチベーションを高めていくことができる。教職員はこの効果を認識、共有することで、同じ目線で生徒と関わる事が可能となり、より一層教師間の連携や、協働を図ることができる。このように生活環境・学習環境が整い、その充実が図られることで、学校は全体的に心理的安全性が保障されている学び舎となり得る。その実現に迫るために、「学年担任制」を行い、学級担任では気付かない生徒の良さや頑張りを、他の教員も見抜いて褒める機会を増やす。より多くの目で見ること、より多くの生徒の良さに気づき、声掛けの場面を作る。教師はあくまでも伴奏者でありたい。私たち教員は、「学び手は常に正しい」という視点に立って教材研究及び授業を行い、生徒がつまづいている姿や学び辛さを理解し、必要な方策を講じるように努める。（個人攻撃の罠に陥らない。）また、SWPBSは、生活規律やルールなど学校生活全般での生徒の望ましい行動を引き出すものであると同時に、学習においてもその効果を上げ得る最善の方策であるという認識を共有し、全教職員が信じて、方向性を同じくして取り組んでいく。



SwCo.（Swaton Company:スワトンカンパニー）は、一言でいうと「生徒による会社の起業、経営体験」である。生徒が課題意識をもって学校や地域、そして未来を見据えて、自分たちのために会社を起業し経営することを通して、生徒の主体的、協働的、創造的な力を培う場面として位置づけている。生徒が課題意識をもって「やってみたい」「人の役に立つ」会社を目指して経営することで、やりがいや達成感、そして働く楽しみを味わいながら、将来的に社会貢献できる人間として、中学校以降のキャリア形成を図ることができるよう取り組んでいく。この取り組みを通して生徒の自己肯定感、自己有用感、協働性を高め、生徒一人一人が願う「なりたい自分」の具現化を目指していく。また、コミュニティスクールと共に地域社会や地域の企業とも連携、協働を図りながら、持続可能な社会の創り手として自ら課題を求め、解決することができる生徒を育成していくことを目指す。



PLANSでは、自分の将来を考える上で何が大切かを明確に捉え、なりたい自分、将来の夢、目標等を叶えたり達成したりするための技術を身に付けさせていく。目標を達成する為の技術があることや、結果の目標ではなく、行動の目標を立てることの重要性を、本校で使用している生活ノートを活用して身につけさせていく。具体的には、ポジティブ行動マトリクスの実践と振り返り。PT（プランニングタイム）を活用し、日々の学習について、計画的に取り組む習慣を身につけさせ、将来的に社会で生きていく上で必要なプランニング能力や、スケジューリング能力の習得を目指している。さらに、総合的な学習の時間において、自分の将来を設計し、そこから現在の自分を見つめることができるようにライフプランニングの授業にも取り組んでいく。Society5.0の社会をたくましく生き抜き、社会の在り方に責任を有する主権者として、自己の個性や能力を生かして活躍する自立した人間として主体的に社会参画していくことが求められている。そのためにも、他者と協働して創造的に課題解決していくためのコミュニケーション能力も身に付け、計画的にキャリア形成を図っていく。



個別最適な学びと協働的な学びを深め、これからの生徒たちが Society5.0 以降の社会において汎用的な資質・能力を獲得し、新たな価値を創造していくために STEAM 教育は有効であると考えている。本校では令和3年度より総合的な学習の時間において、「地域活性化」を実現するために ICT 機器やプログラミングなどの活用を通して取り組んできた。その結果、一定の成果を上げることができている。今後も継続して取り組んでいくが、それと同時に令和5年度は、総合的な学習の時間で培った資質、能力を生かして、各教科においても教科横断的に積極的に STEAM 教育にチャレンジして行く。なお、各教科で STEAM 教育を進めるにあたっての視点は、

- ①2 つ以上の STEAM 領域が含まれた学習内容であること。
- ②問題解決的な学習に取り組むこと。
- ③実社会の問題解決を学習内容に取り入れること。
- ④机上の空論で終わるのではなく、アウトプット（プレゼン等）まで行うこと。

とし、この4つを含めた実践を各教科での STEAM 教育授業実践と捉え取り組みを進める。

「学校教育目標」と「令和5年度重点目標」に向けて

温かな人間関係の中で生き生きと自主的に活動し、持続可能な社会の創り手として自ら課題を求め、解決することができる生徒を育成する

目指す
生徒像

☆自ら考え、学び、自他の良さに気付く生徒 ☆自らの考え・主張を自分の言葉で伝えられる生徒
☆お互いに認め合い、助け合う生徒 ☆将来の夢や希望を持ち、自主的にその実現のために努力できる生徒

重点目標 ☆よさに気付く力(創造) ☆伝える力(発信) ☆関わる力(協働) ☆挑戦し、やり抜く力(挑戦)
○生徒の学習活動、日頃の成果を発揮する場と機会を意図的に創り出し、自己達成感、成就感を味わわせる
○学校教育活動等のあらゆる場面において自主的、主体的、能動的で創造性にあふれた活動を引き出す
○SWPBS、RTIを根拠とした生徒指導、授業改善と支援体制を通して、生徒、保護者、教職員共々のQOLの向上に努める

豊かな人間性 【温かな人間関係】

思いやりがあり、他と優しいかわり合いができる生徒
何事にも粘り強く立ち向かう生徒
互いの良さを認め合い、生かしていく人間関係の構築
自発的・自治的な活動を通して、積極的な社会参画意識の醸成

健康・体力 【持続可能な社会の創り手】

健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒
生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現を目指す生徒
生涯を通じて心身の健康の保持・増進を目指すとともに、疾病のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりを目指す生徒

資質・能力の育成

BE THE PLAYER

確かな学力・探求課題解決能力

何ができるようになるか

- 育成を目指す資質・能力
- ・学んだことを自分の言葉で表現したり、実生活の中で活かしたりできる力(人の役に立つ)
 - ・持続可能な社会の創り手として、主体的に課題を解決することができる力(なりたい自分)
 - ・すべての教科学習の基盤となる汎用的な能力
 - ・SwCo.は主体的、協働的、創造的な力を培う場とし、Society5.0を主体的に生きるための資質・能力を育成する

何が身に付いたか

- 学習評価を通じた学習指導の改善
- ・つまづきの見られる生徒に対して三層支援レベルを通して学習支援を進め、学習基盤づくりを進める
 - ・①興味を持つ、②課題設定する、③実行する、④振り返るの課程を通して学習を積み上げていく。

子どもたちの発達をどのように支援するか

- 支援配慮を必要とする子どもへの指導
- ・全教職員がPBSを理解し、望ましい行動に注目し、ほめる・認める・励ますを繰り返すことで、望ましい行動を増やす。
- 『心理的安全性の確保』
- 学年担任制を全学年で導入することで、多様な価値観に触れる機会を創出
- 教育相談の充実
- ・希望する教員との懇談

目指す子どもの姿

- ・学び合いの中から、自他の良さに気付く生徒
 - ・自らの考えや主張を自分の言葉で伝えられる生徒
 - ・お互いを認め合い、助け合うことができる生徒
 - ・将来の自身の姿を見据え、夢や希望に向かって努力し、やりとげることができる生徒
- Society5.0を見据え、創造的に課題解決する姿

子どもの実態

- ・基礎基本の定着が不十分
- ・自分の言葉で表現、伝えることに課題あり
- ・粘り強く取り組むことが苦手
- ・人間関係構築能力に課題あり

何を学ぶか ○教育課程の編成

- ・各教科の基礎基本を大切に学習内容を学ぶ
- ・プランニングタイムを活用し、プランニング能力の習得を目指し、将来の自己設計に役立てる
- ・スケジュールリング能力を身に付け、家庭学習の計画的な実施に努める
- ・計画的にキャリア形成を図る

どのように学ぶか ○教育課程の実施

- ・すべての教科、科目でSTEAM教育を積極的に取り入れる
- ・他者との学び合いから、自分の考えをさらに深められるように学ぶ
- ・STEAM教育を通して、社会・地域など実社会とのつながりを意識した探求課題を設定し、課題解決できるように学ぶ
- ・各教科での「見方・考え方」を全教職員で共通理解し、各教科等の単元で身に付けた資質・能力が一層汎用的な力として磨かれていくよう、単元間や学年間、教科間といった縦・横のつながりを意識した教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に努める

実施するために何が必要か

- 授業改善、指導体制の充実
- ・校内研究会の充実
 - ・地域や家庭、関係機関との連携・協働

安心・安全を守る

- ・いじめ防止基本方針の策定
- ・避難訓練の定期的な実施と工夫改善
- ・計画的な安全点検

開かれた学校づくり (学校運営協議会制度)

- ・コミュニティスクールと共に歩む学校運営
- ・各種行事を通じた地域・家庭との連携
- ・学校公開の充実
- ・校区小学校との連携

STEAM教育の捉え方

- ① 2つ以上STEAM領域が含まれた学習内容であること。
 - ② 問題解決的な学習に取り組むこと。
 - ③ 実社会の問題解決を学習内容に取り入れること。
 - ④ 机上の空論で終わるのではなく、アウトプット(プレゼン等)まで行うこと。
- この4つを含めた実践をSTEAM教育授業実践と捉える。